

業連だより

10月3日(木) 15時から、業務連絡会議が行われ、冒頭、森理事長より、以下の言葉があった。「西方総監部の行事に参加した。西方は重要正面で、今は半有事とでも言う状況であろう。情勢の変化に応じて改編も多く、隊員にも負担がかかる。何が起るかわからない時代だが、自衛隊は常に信頼に足る組織である。偕行社も時代に応じた変革が必要である」

協議事項として、山越事務局長からまず、全国会長会同について報告があった。主要議題は偕行社と各地偕行会の協力要領についてであり、偕行社の将来構想について説明し、慰霊顕彰に関する協力要領に焦点を当てる。熊本偕行会から協力要領の一例としての発表を予定している。偕行社の将来像、特に自衛隊との協力要領などについて意見交換する。同じく、塩田前副理事長お別れの会について報告があった。会は、11月17日(日) 11・30～13・00まで、靖国会館で実施する。会の次第について報告した。会場は、椅子席のみ場合は最大140余り準備できる

が、参加者数が読めないところもあり、椅子席と立食の組み合わせ案なども検討する。

報告事項として偕行社総会実施計画について、事務局長から説明があった。日時は10月11日(金) 11・00～15・15まで、グランドヒル市ヶ谷で実施する。会務報告を行ったのち、東方音楽隊の演奏、続いて湯浅悟郎陸幕長による記念講演を予定している。

慰霊・援護委員長吉橋理事より、9月11日(水)に行われた「市ヶ谷台慰霊祭実施結果」について説明があった。参加者数は若干減少したが、ほぼ昨年並みであった。理事長より市ヶ谷台慰霊祭は、偕行社が主催であり、その趣旨など今後考えていく必要があるとの発言があった。

火箱理事より、防衛産業に対する偕行社の紹介結果について説明があった。法人会員を増やすべく、9月12日(木)に日本防衛装備工業会において防衛関連会社12社に偕行社の紹介と勧誘を行った。会社によっては前向きにとらえてくれるところもあり、話を進めたい。今後各理事・委員長も多くの会社に働きかけてほしい。